

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02367

研究課題名(和文)「翻訳文学」としての21世紀アメリカ文学論

研究課題名(英文)21st Century American Fiction as Translated Literature

研究代表者

藤井 光 (Fujii, Hikaru)

同志社大学・文学部・准教授

研究者番号：20546668

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現代アメリカ小説が「翻訳」という現象に接近しているのではないかという視点から、21世紀の創作を理解することを試みたものである。第一にアメリカ合衆国の外に生まれ、英語を母語としない移民作家による、英語での創作においては、創作する行為それ自体が、言語横断的な「翻訳」という要素を含みこまざるを得ない。一方で、アメリカ作家たちは、特定の土地を描くに際しても、土着性ではなく、それが他の土地と代替可能であることを重視する(アンソニー・ドーアなど)。その根底にあるのは、翻訳研究で翻訳可能性/不可能性をめぐる議論でもしばしば言及される、「交換可能性」という概念である。

研究成果の概要(英文)：This research aims to understand contemporary American fiction, including both U.S.- and foreign-born writers in English, as part of the wider phenomenon of “global” and “translated” fiction. Immigrant writers’ narratives often pay close attention to the dynamics of power between layers of narrative, for their act of writing itself is a cross-linguistic maneuver. U.S. writers, on the other hand, increasingly commit themselves to a fabulist style, in which one setting is described as always interchangeable with another; namely their style, though in a different form from immigrant writers, is based on the idea of translatability.

研究分野：現代アメリカ文学

キーワード：現代アメリカ小説 翻訳研究 移民作家 寓話性 翻訳可能性 土着性

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究を進めていく契機となったのは、アメリカ文学が21世紀に入り、「アメリカとは何か」という主題から次第に離れ、より無国籍的(すなわちグローバル的)な作風を選ぶ傾向を強めていること、そして、その現象がアメリカ生まれの作家たちのみならず、移民作家、あるいは移民にルーツを持つ作家たちにも共通して見られること、という二点を総合的に検証する必要性が出てきたことによる。

もちろん、Caren Irr による *Toward the Geopolitical Novel* (2014) など、移民作家を取り上げてその新しい傾向を分析しようとする研究は登場してきている。ただし、それらはアメリカ合衆国自体の相対的な存在感の低下という、アメリカ小説の大きな潮流を視野に入れてその現象を捉えるには至っていない。また、国民文学という全体があるがゆえに、「無国籍化」を最大の特徴とする21世紀英語文学の創作全体をまとめるような枠組みを提示するには不十分なままにとどまっている。英語がグローバル通貨のような役割を果たす現在の世界において、アメリカから登場する移民の小説が、母国語と英語をはじめとする複数言語の力関係と、ときには緊張をはらんだ摩擦を特徴としていることは、より注目されてしかるべきであるといえる。それらの問題系を整理し、現代アメリカの創作に内在する原理としての「翻訳」という全体像を提示することが、本研究の出発点となっている。

2. 研究の目的

本研究は、現代アメリカ小説が「翻訳」という現象に接近しているのではないかという視点から、21世紀の創作を理解することを試みたものである。その研究を遂行していくにあたっては、以下の二点を中心となった。

(1)アメリカ合衆国の外に生まれ、英語を母語としない移民一・五世の作家による、英語での創作の台頭である。移民二世が英語で創作を行うケースが、20世紀においては移民文学の主流をなしていたが、21世紀においては、移民受け入れ政策の変化なども影響して、移民が即ミドルクラスに参入して作家活動を始める、あるいはそうした移民の家族として同行した子供が英語教育を受けて作家になるといったケースが増加している(中国生まれのイーユン・リー、旧ユーゴスラビア出身のテア・オブレヒトなど)。これら一・五世の作家は、しばしば母国を舞台とする物語を書くことを選ぶが、その際、母国やそこでの出来事は固有名を伏せられ、程度の差はあれ寓話化される傾向にある(オブレヒト、サルバドール・プラセンシア、ダニエル・アラルコンなど)。そこでは、書き手が母国語とのあいだに一体感を感じてはおらず、かつ、英語という創作手段にも完全に同化しきれていないという問題が大きな役割を果たす。言い換えれば、こうした書き手たちは、創作する行為それ自体が、言語横断的な「翻訳」という要素を含みこまざるを得ないことに対し、極めて自覚的である。ダニエル・アラルコンやアレクサンダル・ヘモンは特に、そうした問題を物語の展開の中心に据えることによって、翻訳と文化・言語間の緊張関係に迫ろうとしている。

(2)アメリカ小説の一つの重要な主題となっていた、「ロード」や「移動」の物語を継承する作家が、ジョナサン・フランゼン以降は顕著に減少していることである。従来の移動の物語とは、様々な土地と登場人物との出会いを通して「アメリカ」の姿を描き出そうとする、土着性の強いジャンルであったという一面を持つ。これに対して、新たに登場してきたアメリカ作家たちは、特定の土地を描くに際しても、土着性では

なく、それが他の土地と代替可能であることを重視する（アンソニー・ドーア、あるいはアダム・ジョンソンなど）。その根底にあるのは、翻訳研究で翻訳可能性／不可能性をめぐる議論でもしばしば言及される、「交換可能性」という概念である。ある土地と別の土地が交換可能であること、さらには、ある登場人物と他者との間に共通理解が成立しようと仮定することによって、そうした新たな土着性の文学は成立していると考えられる。「共感」という主題は、まさにその中核にあるものとして、たとえばドーアの諸作品においては決定的な役割を担っている。

これらの作家たち・文学テキストを総括的に論じることが、本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究は、複数の小説を取り上げ、(1) 個々のテキストについての精読の試みだけでなく、(2) テキストにおける土地や語りのなかの権力関係という主題的特徴を抽出して接続するという横断的な試みを併せて採用している。そのため、(1) については文学批評において小説テキストを論じるという手法を採用し、(2) については「翻訳的」という枠組みを重視するなかに個々のテキストを位置付けるという方法論を採用している。それらは、学会発表を経て論文化・書籍化され、一定の成果を発表するに至っている。

同時に、主に研究で取り上げる作家たちへのインタビューを積極的に試みたほか、そうした書き手の小説を日本語に翻訳紹介することを通して、一次資料である小説テキストの認知にも努めた。

4. 研究成果

アメリカ作家における寓話性、非英語圏出身の英語作家たちによる母国を寓話化する物語など、グローバル化を踏まえた作風についての見取り図を、本研究期間中に単

著『ターミナルから荒地へ』（2016年）として発表する機会を得た。一般向けの著作であるために、理論的な側面を大きく打ち出すには至らなかったが、現代アメリカ小説の動向を報告するとともに、それがグローバル化の時代のなかで他地域の英語での創作とも共振するものであることを論じるという目標については達成できたものと考えている。

同時に、アメリカ小説の動向をより広く一般社会に認知してもらう機会として、放送大学の番組『世界文学への招待』に参加する機会を得た。担当した二つの章において、アメリカ文学を「戦争」と「移民文学」の二つの観点から紹介している。前者はアメリカ小説のひとつの伝統であった戦争文学の流れを整理・紹介し、後者はそうした伝統を多様化させていく移民たちの記憶を中心として整理することで、現代アメリカ文学の見取り図を提供することを目指した。

また、個別の作家・作品について、小説テキストの分析を行った論文を発表した。英語論文（ダニエル・アラルコンとミロスラフ・ベンコフにおける「ロード」概念の変形を論じたもの）、日本語論文（ダニエル・アラルコンとアレクサンダル・ヘモンにおける「翻訳」概念を論じたもの）を発表した。

土地の交換可能性という主題が、アメリカ生まれの作家と移民作家に共通して見られることについては、概念的な見取り図を日本語論文「偶然の土着性」と二世紀アメリカ作家たち：交換と共感をめぐって」として発表した。

その他、日本におけるアメリカ文学の翻訳受容について、『アメリカ文化事典』に寄稿したほか、現代の移民・難民作家たちの作品を日本語に翻訳（イラク出身の作家ハサン・ブラーシムなど）して紹介する機会を得ている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

1. 藤井光. 「偶然の土着性」と二世紀アメリカ作家たち: 交換と共感をめぐって」, 査読なし、『クワイテリア』2号(2017年)、8-17頁。

2. 藤井光. 「オリジナルなき翻訳の軌跡: ダニエル・アラルコンとアレクサンダル・ヘモンにおける複数言語と暴力性」、査読なし、『岩波』17巻5号(2016年)、114-32頁。

〔学会発表〕(計 4 件)

1. 藤井光. 「移民たちのアメリカと異国の出来事: 21世紀作家たちの「偶然の土着性」」公開ワークショップ「アメリカ文学とホームランド」科研費プロジェクト「ホームランドの政治学」および九州アメリカ文学会共催、2017年8月18日、九州大学(福岡)。

2. 藤井光. 「ハサン・ブラーシムの非常/非情世界: 「翻訳」との接触をめぐって」中東現代文学研究会第17回定例研究会、2017年1月6日、京都大学(京都)。

3. 藤井光. 「紛争と寓話が交わる場所」日本英文学会第87回全国大会シンポジウム「新しいNovelのかたち」2015年5月24日、立正大学(東京)。

4. Hikaru Fujii. “Contemporary American Fiction: Writing & Translating with/out the Original.” International Translation Studies Symposium: Issues in Literary Translation. 2015年5月15日、Yonsei University, Seoul, South Korea.

〔図書〕(計 9 件)

1. 藤井光 他(項目執筆)、「アメリカ文学の翻訳」『アメリカ文化事典』アメリカ文学会編、丸善出版、2018年、全960頁(588-589頁)。

2. 藤井光(翻訳)、『死体展覧会』ハサン・ブラーシム著。白水社、2017年、198頁。

3. 藤井光 他(編著書)、『文芸翻訳入門 言葉を紡ぎ直す人たち、世界を紡ぎ直す言葉たち』フィルムアート社、2017年、全276頁、編纂および二章(11-51頁、159-187頁)担当。

4. 藤井光(翻訳)、『すべての見えない光』アンソニー・ドーア著。新潮社、2016年、528頁。

5. 藤井光 他(共著)、『世界文学への招待』放送大学教材、2016年、全285頁、第二章および第三章担当(24-59頁)。

6. Hikaru Fujii 他(共著), *Ways of Being in Literary and Cultural Spaces*. Ed. Leo Loveday and Emilia Parpala. Newcastle upon Tyne, Cambridge Scholars Publishing, 2016, 240 p (pp134-142).

7. 藤井光(翻訳)、『夜、僕らは輪になって歩く』ダニエル・アラルコン著。新潮社、2016年、381頁。

8. 藤井光(単著)、『ターミナルから荒地へ 「アメリカ」なき時代のアメリカ文学』。中央公論新社、2016年、265頁。

9. 藤井光(翻訳)、『ミニチュアの妻』マヌエル・ゴンザレス著。白水社、2015年、283頁。

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) (1)研究代表者

藤井 光 (FUJII, Hikaru)
同志社大学・文学部・准教授
研究者番号：20546668

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()